

2008年5月15日 説明会

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2008年3月期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

加工食品の大幅減益を低温物流が海外の好調で下支え

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2008年3月期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	07/3	08/3(E)	08/3	08/3対07/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,576	4,600	4,635	+59	+1.3%
営業利益	181	168	173	-7	-4.4%
経常利益	173	160	168	-4	-2.9%
当期純利益	108	98	96	-12	-11.3%

08/3(E)・・・2008年3月期見込・・・は2月5日に発表したもの

1. 売上高

餃子事件の影響もあり家庭用の不振から加工食品が減収となったが、物流ネットワークと海外の好調な低温物流、鶏肉が好調な畜産が増収となり全体では1.3%の増収。

2. 営業利益

加工食品は原材料価格の上昇を製品価格改定の浸透で吸収したものの、上期から続く家庭用の不振に加え餃子事件の影響やアセロラの減収、退職給付費用など固定費の増加もあり07/3比19億円の大幅減益となった。

水産は、上期はえび市況急落により採算が悪化した下期にこれを改善、07/3比1億円の減益。低温物流は好調な海外と採算改善が進んだ物流ネットワークの双方が寄与し13億円の大幅増益。

3. 経常利益

07/3比4億円の減益。金融収支は07/3比1億円の改善。

4. 当期純利益

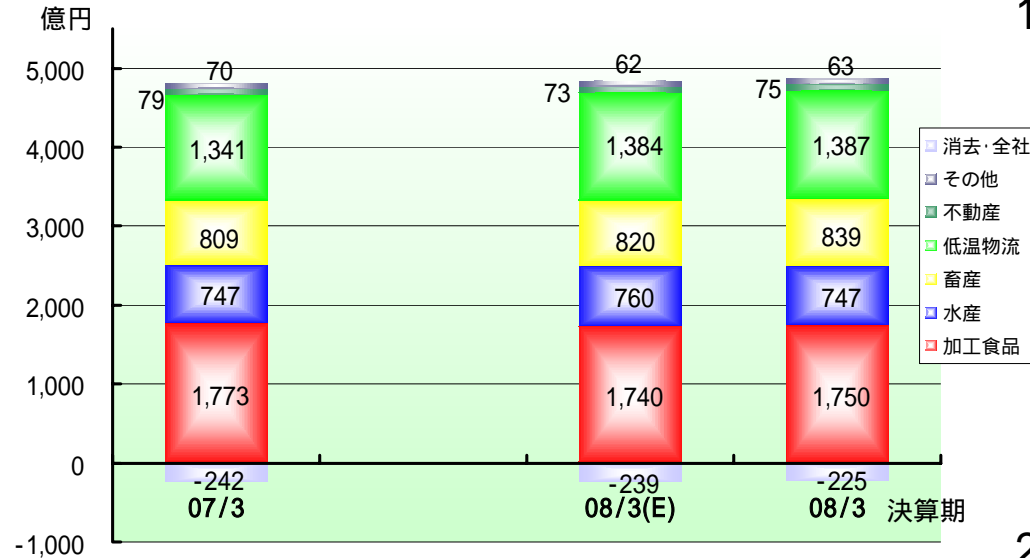
特別損益は関係会社株式売却益がなくなり07/3比22億円の減、当期純利益は12億円の減益。1

加工食品は餃子事件の影響もあり減収・大幅減益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)

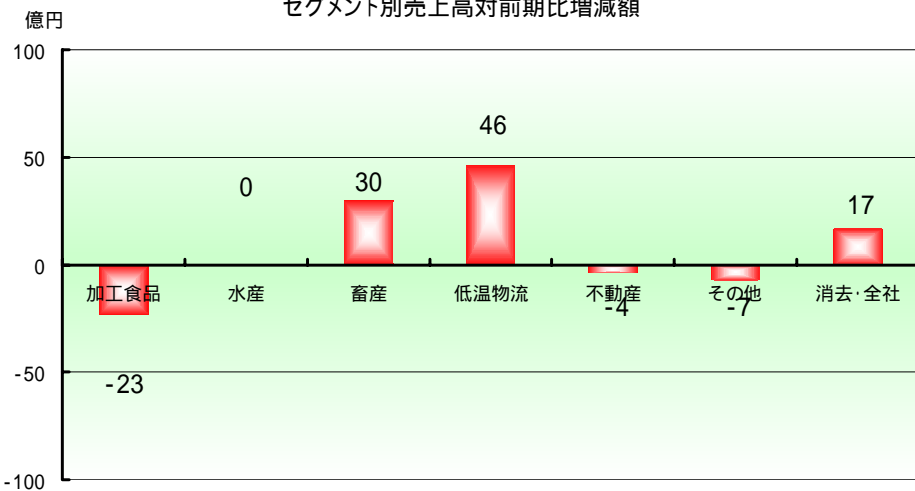
セグメント別売上高の推移



1.加工食品

売上は業務用調理冷食が中食市場向けを中心に伸長したが、家庭用が大型新商品の不在、餃子事件の影響を受け減収となったことに加え、農産品やアセロラの減収も響き全体では07/3比1%の減収。営業利益は、原材料価格の上昇を価格改定の浸透で吸収したものの、上期から続く家庭用の不振に加え餃子事件の影響や農産品・アセロラの減収、退職給付費用や広告費など固定費の増加もあり07/3比19億円の大幅減益になった。

セグメント別売上高対前期比増減額



2.水産

売上は前期並みを維持。水産再生プランの中で拡大がテーマの「成長ドライブ領域」は構成比が上昇した。利益面は上期にえびが市況急落により採算が大幅に悪化、下期には損失在庫の一扫で利益率が好転、回復が鮮明になったが通期では5億円の営業損失となり07/3比1億円の損失拡大となった。

3.畜産

国産鶏肉が好調に推移し増収。営業利益は牛肉の仕入コスト増などで前期並みにとどまる。

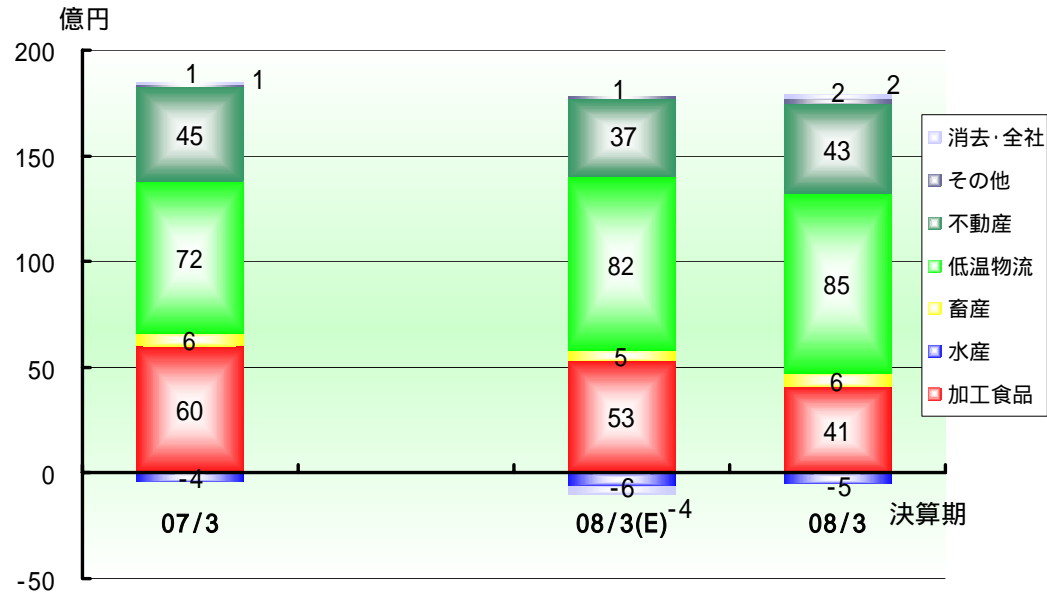
(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

低温物流は海外の好調で増収・増益に

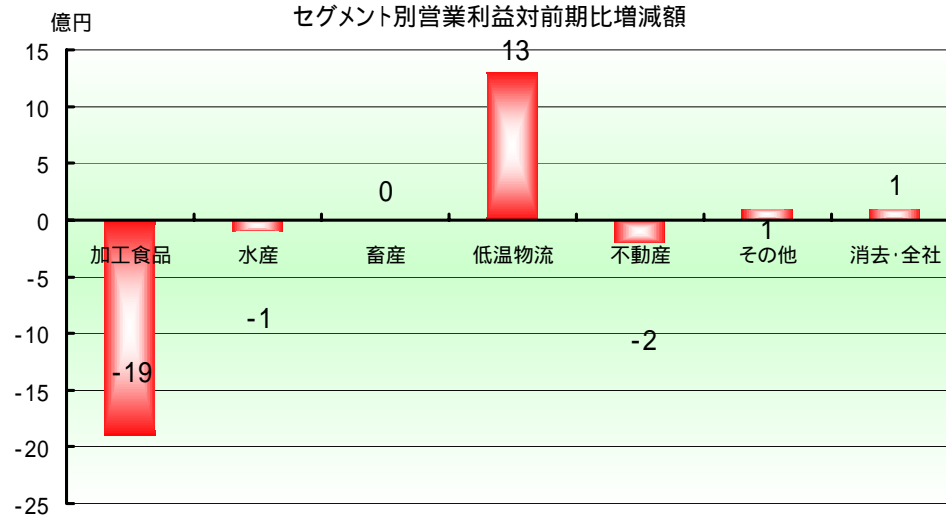
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)

セグメント別営業利益の推移



セグメント別営業利益対前期比増減額



4.低温物流

海外は欧州の冷蔵倉庫・フォワーディング業務いずれも好調でユーロ高の要因もあり07/3比大幅増収・増益に。地域保管は事業環境が厳しくなる中で、集荷努力が実り前年並みの在庫水準を確保、減収だが営業利益は減価償却費の会計制度変更による負担増を除くと前期並を維持した。物流ネットワークは運送部門で増収となったほか、不採算事業所の採算改善が進み増益となった。以上の結果 全体では07/3比4%の増収、13億円の大増益となった。設備投資は中期計画と比べ半年程度進捗の遅れがでている。

5.不動産

08/3はオフィスの賃貸などに加え、姫路市や焼津市所在の土地分譲を実施した。

6.その他

米国のてんぐは牛肉加工品の日本・韓国への輸出再開のめどが立たず、資産を売却し会社を解散した。

業務用の拡大が続く。家庭用は餃子事件の影響も受け減収

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷凍食品売上高

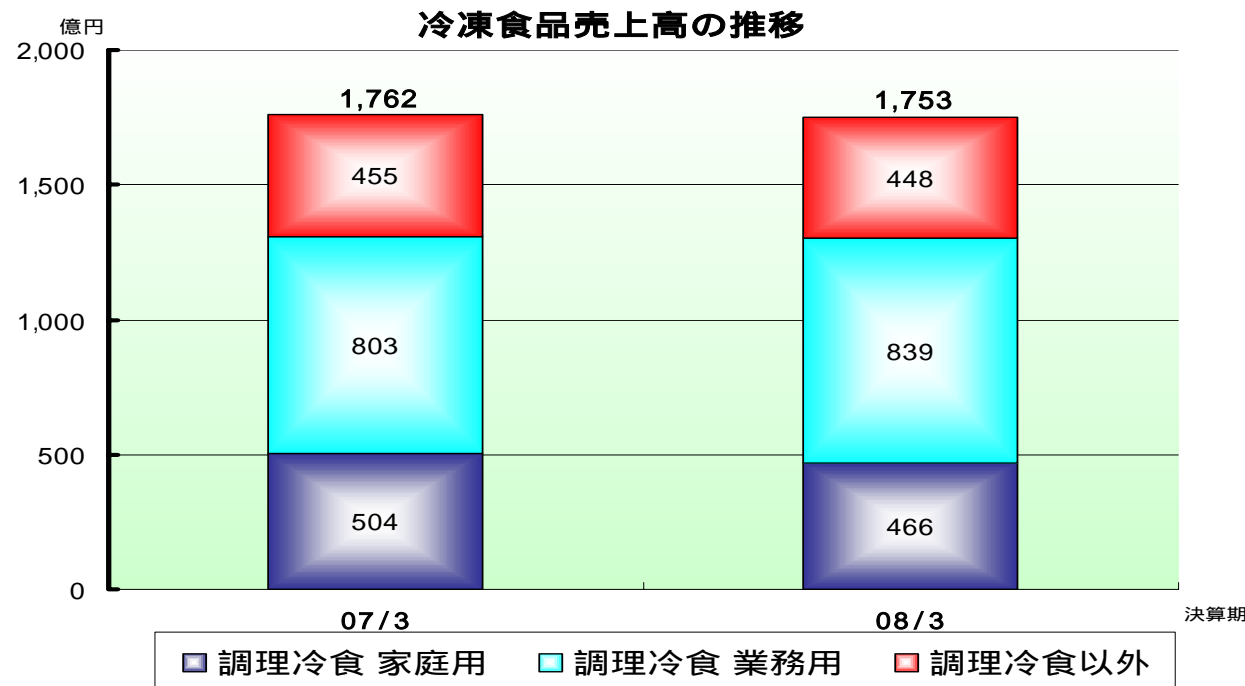
1. 冷凍食品全般

07 / 3比1%の減収。調理冷食は業務用が好調であったが、家庭用の不振と餃子事件の影響もあり調理冷食全体では前期比横這いとなる。冷凍野菜は中国産の落ち込みが影響し3%の減収。

2. 調理冷食

家庭用：07 / 3比8%の減収。からあげチキンや春巻等の重点商品の拡販やエリア開発商品などで一定の成果は残せたものの、商品開発力低下による大型新商品の不在、餃子事件の影響等により、最終的には前年を大きく割り込む結果となった。

業務用：07 / 3比5%の増収。今期もチキン加工品が好調に推移したこと、上期に立ち上がりが遅れたポテトコロケが下期に大きく伸び計画水準まで追いついたことが寄与した。

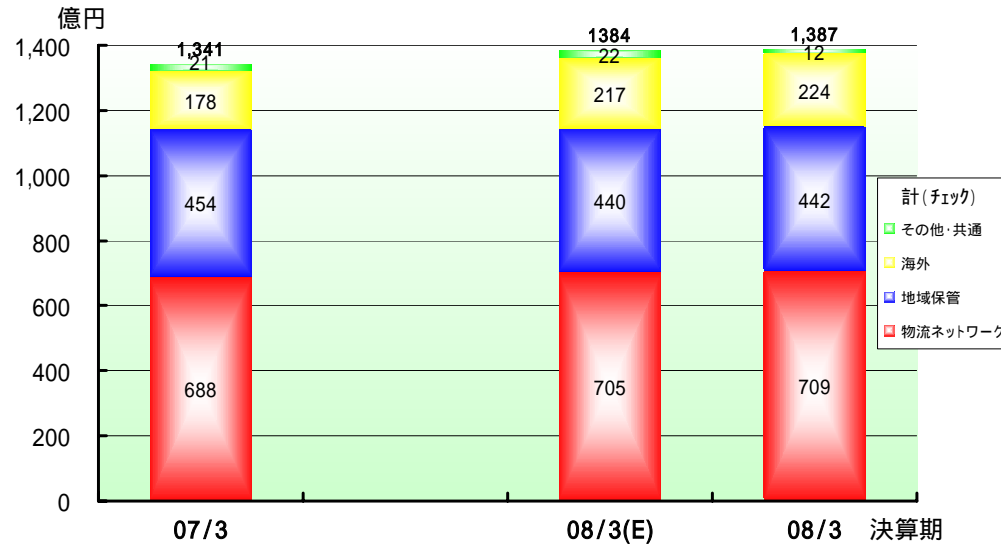


海外の好調に加え物流ネットワークの採算改善も進む

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



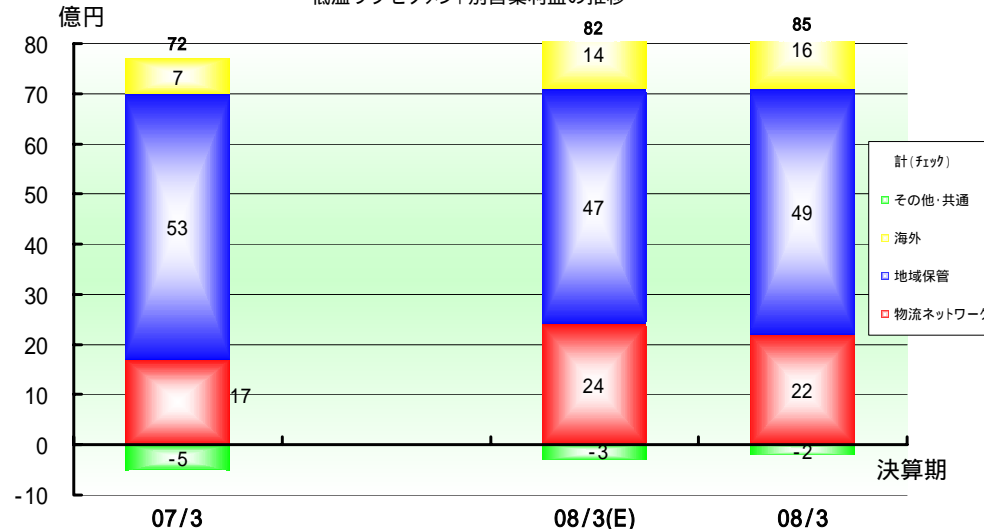
1. 海外

ロッテルダム港湾の一般貨物、果汁などの冷蔵倉庫やオランダ内陸の冷蔵倉庫がいずれも稼働率が向上、フォーディングなど運送部門も集荷拡大策が奏効し、07/3比26%の増収、9億円の大幅増益に結びつく。3年前に進出したポーランドの冷蔵倉庫も好調で営業黒字に、新たな拠点への新設投資も決定した。

2. 地域保管

業界では冷蔵倉庫の在庫水準の低下が続いており環境は厳しいが、04年の地域分社化以降強化してきた地域密着営業による集荷活動が他社との差別化につながり、当社の在庫率は前年並みを維持している。廃止事業所もあり07/3比3%の減収だが、営業利益は減価償却の会計制度変更に伴う負担増3億円を除くとほぼ前年並の水準となった。

低温サブセグメント別営業利益の推移



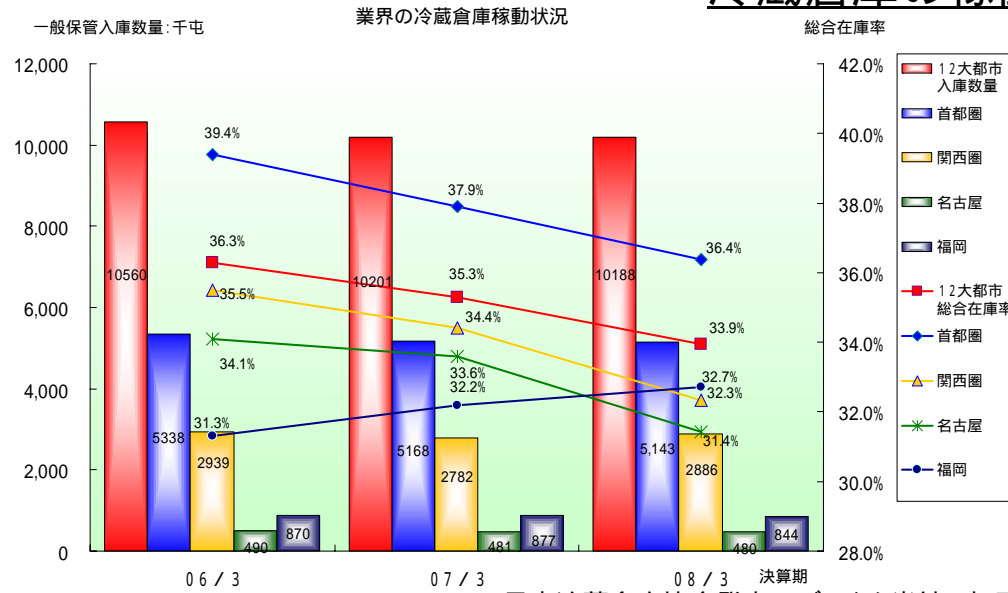
3. 物流ネットワーク

新センター開設が無かったものの既存センターの伸長と運送部門の拡大で07/3比3%の増収。燃油価格の上昇分も顧客の理解を得ながら転嫁を進める。営業利益は不採算事業所の採算改善が進捗し5億円の増益。

業界は在庫率低下が続く中で当社は前年水準を維持

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷蔵倉庫の稼働状況



1. 業界の状況

全体の入庫量は微減。総合在庫率は福岡地区を除き07/3を1ポイント以上下回った。

2. 当社の状況

今年度は餃子事件の影響等もあり入庫量は微減となったが、営業活動強化により総合在庫率では07/3並みを維持した。

3. 業界の設備能力

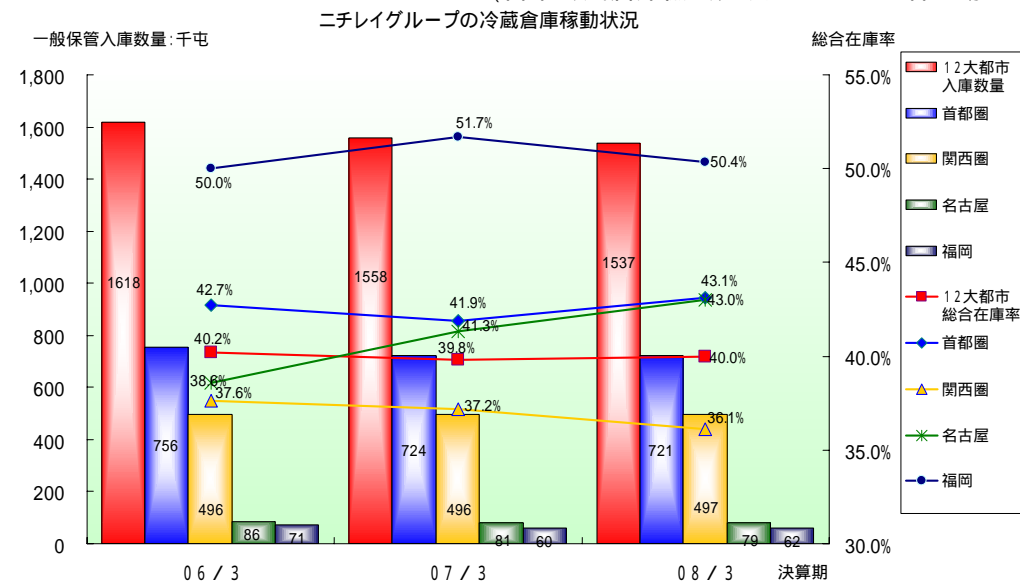
業界全体では1%強の増加。

冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2008年4月1日現在)

社名・グループ名	拠点数	能力万トン	07/4比増減	能力シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	87	134	-1	12%	全国
横浜冷凍	41	67	5	6%	全国
マルハニチログループ	38	57	-2	5%	全国
東洋水産グループ	17	33	-8	3%	全国
日本水産グループ	17	30	-5	3%	全国
五十嵐冷蔵	8	19	0	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
ヒューテックノリン	10	13	0	1%	全国
鴻池運輸	12	13	1	1%	全国
キューソー流通システム	22	12	0	1%	全国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
兵食	7	11	0	1%	関西
二葉	5	10	0	1%	関東
ハウスイ	7	9	0	1%	関東
山手冷蔵	5	9	0	1%	関東、中部
川西倉庫	7	9	-1	1%	関東、関西
港湾冷蔵	6	9	0	1%	関東、関西、九州
東京豊海冷蔵	3	7	0	1%	関東
その他	1,345	656	23	58%	
合計	1,647	1,124	12	100%	

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

有利子負債の圧縮が更に進む

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

08 / 3期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

【主な要因】

科目	07/3	08/3	増減
(資産の部)			
流動資産	1,076	1,030	-45
固定資産	1,615	1,547	-67
資産の部合計	2,691	2,578	-113
(負債・資本の部)			
流動負債	862	812	-50
固定負債	698	600	-97
負債の部合計	1,560	1,413	-147
純資産の部	1,130	1,164	34
(うち自己資本)	1,110	1,142	32
(有利子負債)	729	661	-68
科目	07/3	08/3	増減
(設備投資額)	89	70	-19
(減価償却実施額)	95	94	-0

07 / 3末が銀行休業日だったことにより売上債権が33億円減少、たな卸資産も水産品を中心に23億円減少

投資有価証券時価評価差額が66億円減少

07 / 3末が銀行休業日だったことにより仕入債務が9億円減少、投資有価証券評価差額の減少などにより繰り延べ税金負債も17億円減少、長期借入金の返済や社債の償還が進み有利子負債は68億円の減少。

08 / 3の設備投資の主なもの:

(加工食品)

ニチレイブラジル農産: 果汁濃縮ライン新設

(畜産)

ニチレイフレッシュファーム: 純和鶏飼育設備

(低温物流)

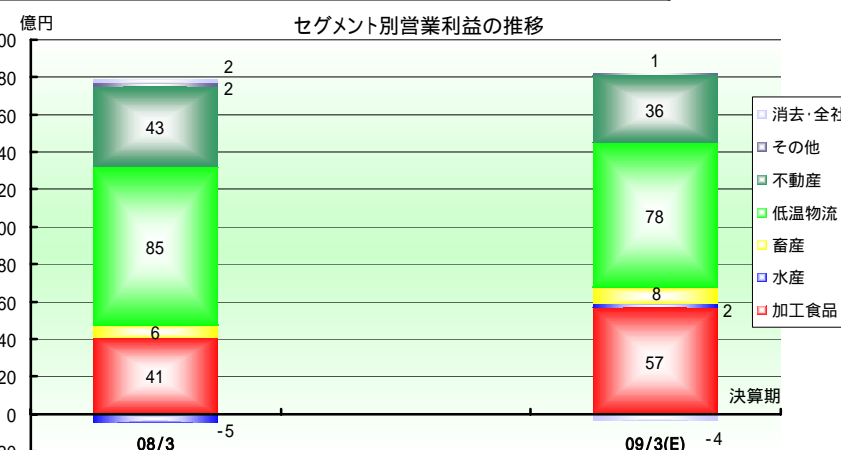
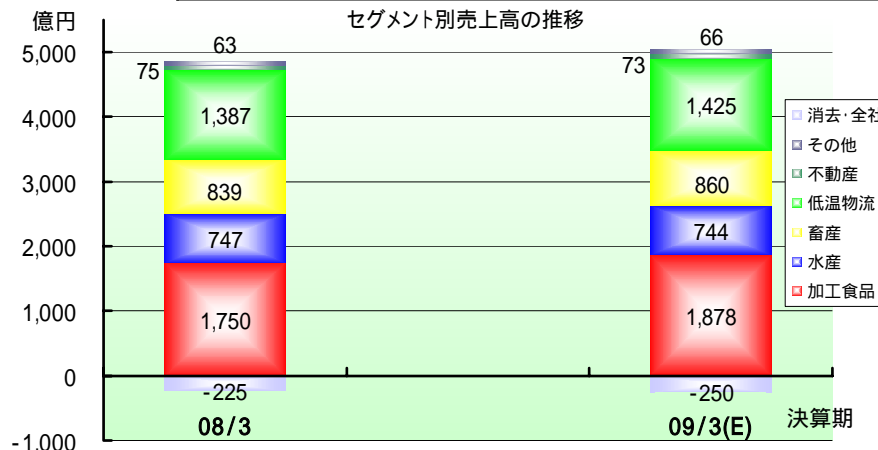
キョクレイ山下DC建替

原材料費などのコスト上昇を吸収して増収・営業増益へ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2009年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	08/3	09/3(E)	09/3(E)対08/3比較	
			増減額	増減率
売上高	4,635	4,796	160	3.5%
営業利益	173	178	4	2.6%
経常利益	168	162	-6	-4.1%
当期純利益	96	90	-6	-6.5%



1. 売上は加工食品、畜産、低温物流が増収、営業利益は低温、不動産の減益を見込むが加工食品、畜産の増益と水産の黒字化で全体では4億円の増益となる。
2. 加工食品は、業務用調理冷食を中心に売上高を伸長し、工場の操業度改善により利益拡大を図る。
3. 低温物流は増収。営業利益は、海外がフル稼働の状況で利益横這い、国内は地域保管、ネットワークともに電力料や燃油などのコスト上昇と、冷蔵倉庫の新增設によるコスト増などがあって減益となる。
4. 金融収支は08/3比で13億円悪化、うちリース会計基準変更で6億円減を見込む。
5. 当期純利益は08/3比で6億円の減益。リース会計導入による過年度会計処理差異15億円を特別損失に計上。

08 / 3 は関係会社株売却益がなく特別損益が22億円減

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す	08 / 3対07 / 3比較				09 / 3E対08 / 3比較		
	08 / 3	07 / 3	増 減		09 / 3E	08 / 3	増 減
【営業外収支】 (主要項目)	- 4	- 7	+ 3	【営業外収支】 (主要項目)	- 16	- 4	- 11
金融収支	- 6	- 7	+ 1	金融収支	- 19	- 6	- 13
持分法投資損益	+ 3	+ 5	- 2	持分法投資損益	+ 3	+ 3	- 0
【特別損益】 (主要項目)	- 4	+ 18	- 22	【特別損益】	- 7	- 4	- 2
固定資産売却益	+ 7	+ 6	+ 0				
関係会社株式売却益		+ 29	- 29				
投資有価証券売却益	+ 4	+ 0	+ 3				
固定資産売却損	- 1	- 0	- 0				
減損損失	- 0	- 11	+ 11				
事業所閉鎖損失	- 1	- 4	- 2				

持分法投資損益の増減の主な内訳

- 08 / 3:スラポンニチレイの連結子会社化により 2億円
- アールワイフードサービスの株式売却によるもの
- 07 / 3は営業を停止した冷蔵倉庫を中心に実施
- 07 / 3は冷蔵倉庫4ヶ所を閉鎖
- 09 / 3に発生が見込まれる主なものは、リース会計基準変更時差異

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	07 / 3	08 / 3		09 / 3 (E)
		(E)	実績	
(売上高)				
加工食品	1,773	1,740	1,750	1,878
水産	747	760	747	744
畜産	809	820	839	860
低温物流	1,341	1,384	1,387	1,425
不動産	79	73	75	73
その他	70	62	63	66
全社または消去	-242	-239	-225	-250
合計	4,577	4,600	4,636	4,796
(営業利益)				
加工食品	60	53	41	57
水産	-4	-6	-5	2
畜産	6	5	6	8
低温物流	72	82	85	78
不動産	45	37	43	36
その他	1	1	2	1
全社または消去	1	-4	2	-4
合計	181	168	174	178

08 / 3 (E) は2月5日に発表したもの

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- 新商品・新サービス開発の実現性
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- 偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。